

番組・番組サイト・動画をフル活用して考えを深め、主体的・対話的に学ぶ

神奈川県川崎市立新城小学校 教諭 片岡 義順

小学校5年 社会科 未来広告ジャパン!

番組の特徴

番組では、日本の食料生産がどのような課題に直面し、どう乗り越えようとしているのかについて映像とともにわかりやすく解説。問題解決型の学習に役立つよう、番組ホームページ上の動画クリップ映像なども充実している。

研究の概要

本学級の5年生児童にとって社会科で扱う農業や漁業・工業への関心は薄い。番組を活用することで、日常生活とのつながりを感じながら学習に取り組めることを期待した。調べ学習では、番組やクリップを活用してきた。学習したことを発信する場として番組サイトを活用した。番組や動画・番組サイトをフル活用することで、児童が自分の生活を関連させながら、考えを深めていくことができた。

授業デザイン（単元の流れく全6時間）

単元：これからの食料生産

目標：日本の食料生産が抱えている問題を調べ、食料を安定的に確保する必要性やこれからの食料生産のあり方について考えさせる。

導入

- ・農業や漁業での学習を振り返り、生産者にとっての課題があることを思い出す。
- ・身近にはたくさん食材があることを共有。

番組視聴

「どうする？これからの食料生産」

課題把握

学習課題「日本の食料生産をふやすためにどうすればよいのだろう」

自力解決

現状と実際の取り組みについて、番組webサイト、クリップ、教科書、資料集、図書資料から情報を集める。

協働解決

- ①グループ内で集めた情報を共有する。
- ②グループで課題について集めた資料を根拠に話し合い、解決への取り組みを考える。
- ③発表する内容と活用する資料を決める
- ④発表方法を決めて制作する。

まとめ発表

- ・制作したものは学校公開中、保護者に公開
- ・番組サイトに投稿



NHK for School 未来広告ジャパン! web サイトより引用

番組や関連動画クリップの活用意図

課題と関心・意欲をもつための番組視聴

食料の輸入量の変化や自給率の低さなど、日本の食料生産の現状や課題について、日常生活とも関連させて考えるうえで番組活用が有効である。

情報収集・情報共有の場で動画クリップ

4月から調べ学習の資料として、資料集や図書資料とともにクリップをフル活用してきた。児童は必要な情報を選択したり、共有の場での説明の補助資料として活用していくことができていた。

発信の場として番組webサイトを活用

学んだことを発信する場として番組内サイト「みんなの作品紹介」コーナーを活用した。自分たちが考えたことに責任をもち、相手に伝わるように発信する必要感が生まれる。相手意識を明確に設定することができる。

思考の可視化にかかわる教師の工夫

小グループで主体的・対話的な話し合い活動

4～5人の小グループで学習をすすめた。調べたことを共有する、集めた情報をもとに考える活動に全員が参加できるように心がけた。



伝えたい思いを伝えるために表現手段を選択

考えを発表する方法として、思いが伝わるための表現方法（映像制作、ポスター、プレゼン）を選択し、制作活動に取り組んだ。発表の場（番組サイト）があることが意欲の向上にもつながった。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価（活動後の感想記述）から

- 一つの問題の解決法を考えても、もう一つの問題が解決できなかったりして、大変でした。班の人、一人一人の意見を合わせていき、解決方法ができてうれしかったです。
- 日本の食について調べてみて、さまざまな問題があり、それを解決するために、たくさんの取り組みや取り組む人がいることを知りました。その人たちの努力や思い、取り組みなどを伝え日本全体で考えていきたいと思えます。

評価シートから

実践前後で有意差が見られた項目は以下の通りである。

- 学習した内容を友だちや先生に、正しく説明できる
- 放送番組を使った学習は、わかりやすい

実践を終えて

番組を活用することで、学習内容と自分たちの生活が関連していると感じながら、これからの日本の食料生産を考えていくことができた。納得解を作っていく今回の単元では、番組とクリップ・番組サイトの活用が、主体的に食料生産についての考え、まとめていくうえで有効であった。考えの中には、どの資料やグラフが根拠となっているのかも明確にされていた。一方で納得解を形成する過程で、グループ内でうまくまとめられないで行き詰ることが何度もあった。こうした学習経験を今後も積み重ねていくようにしたい。